

## 野鳥公園整備にあたっての考え方等について

### 1. 基本コンセプト

市民、事業者、NPO 等の関係団体、行政等、多様な主体の参加の下で行われた「野鳥公園ラウンジカフェ」の成果を踏まえて、以下のとおり設定する。

#### 成長する野鳥公園

～人と自然が共に成長し続けるために～

野鳥公園は成長します。それは野鳥公園に限られた立場や世代のための空間ではなく、皆さんの成長にあわせた多様性が生まれる場所だからです。野鳥公園は人によって育てられ、そして野鳥公園が人を育てていきます。

野鳥公園は新たなコミュニティを育みます。それは皆さんと公園との新しい関わりとなり、共働によるパークマネジメント（公園運営）を介して、人と人とのつながりを育んでいきます。

野鳥公園は魅力あるまちづくりへ展開します。それはアイランドシティというまちの成長とともに生きものの命を育み、そして持続可能なまちとして子どもや孫たちの世代へと繋げていきます。

### 2. 整備の方向性

#### (1) 整備の基本的な考え方

##### ① エコパークゾーンとの一体的な整備

###### 主な意見

- ・機能については、エコパークゾーン全体を考慮し、盛り込みすぎず、絞り込むことが必要。
  - ・既にある自然と今後整備していくものの利点をうまく組み合わせることで価値ある空間を作ることが可能。
  - ・生物生息環境の創出においては、対象や目的に応じ、造成や施工の方法が異なるので、和白干潟との関係を十分考慮しながら決めていく必要がある。
  - ・博多湾の貧酸素の問題など周辺環境の改善についても検討して取り組むべき。
- ・エコパークゾーン全域をいわば「大規模な野鳥公園」ととらえ、野鳥公園とエコパークゾーンで機能分担や連携を図る。
  - ・エコパークゾーン全体を見渡せるロケーションを活かし、エコパークゾーンの魅力を感じるための眺望を確保する。
  - ・将来にわたりエコパークゾーンの豊かな自然環境を保全創造していくため、生態系の保全に加え、海域における水質・底質の改善等、さらなる環境質の向上を図る。

## ②「みんなで関わる」を実践する場所

### 主な意見

- ・アイランドシティのまちづくりの中で、エコパークゾーン及び野鳥公園のあり方について市民と共に考える仕組みがあるとよい。
- ・新しいまちとしての人のきずなを生み出すツールとして野鳥公園を活用すべき。
- ・長期整備になるため、継続的に市民に情報発信することが重要。

- ・多様な主体と共働で野鳥公園づくりを進める。
- ・アイランドシティにおいて周辺のまちづくりと調和した公園づくりを実践する。

## ③ 自然の成長を促す段階的な整備

### 主な意見

- ・時代によって考え方が変わってくるので、それに対応できる仕組みがあるとよい。
- ・長期にわたる整備においては、整備の都度、専門家の判断を仰ぎながら、既存の生態系に影響を及ぼさないように進めていくことが重要。
- ・当初の目的に沿った維持・管理を行うためのガイドラインを作成すべき。
- ・将来像を示す情報発信の場が必要。

- ・時間とともに成長する野鳥公園の基礎となる整備を行う。
- ・公園として造りこむ場所と、多様な自然の形成を可能とするため、自然の成長にまかせて基盤づくりのみを行う場所を区分する。
- ・長期的な視野に立ち、多様な主体が継続的に自然形成に携わりながら、順応的管理手法を用いて段階的整備を行うことにより、自然環境の充実を図っていく。

## (2) 整備の視点

### 主な意見

- ・にぎわいをもたせるところと、ある程度人の立ち入りを制限し自然を優先させていくところに分けることが重要。
- ・自然環境について学べる活動を広げるためには、既に市が小学校と共に実施しているアマモの観察学習会などを参考にして、近隣の学校などと協力して進めてはどうか。
- ・保全した干潟の重要性を学べる場所にすべき。

### ① 身近に生きものを感じられる空間の創出

自然に興味をもち、豊かな生態系が形成されているエコパークゾーンの魅力を感じるきっかけとなるように、身近に生きものを観察することができる。

また、自然の成長に自ら携わることを通して、自然の成長を体験できる空間を創出する。

### ② 自然に親しむ空間の創出

やすらぎや癒しを得られるように、エコパークゾーンの豊かな自然を眺め、楽しむ場所や、海と緑の豊かさを感じられる空間を創出する。

### ③ 環境学習・市民交流拠点機能の創出

環境について主体的に学ぶことができる学習拠点機能や、市民による環境保全等の取り組みについての情報を発信し、多様な主体の連携を支援する市民交流拠点機能を創出する。

## 3. ゾーニング

整備の視点で位置づけた空間を以下の4つゾーニングする。また、「環境学習・市民交流拠点機能の創出」については、野鳥公園全体で実現していく。

### (1) 身近に生きものを感じられる空間の創出 . . . **育てる・学ぶ**

#### ① 自然の成長を学ぶゾーン

市民やNPO等、多様な主体が共働で自然形成に携わりながら、時間経過とともに自然が成長する過程を学習する空間を創出する。

#### ② 海の自然を学ぶゾーン

海生生物や野鳥の観察等を通して、海域の生物多様性や環境保全の重要性について学習する空間を前面海域に創出する。

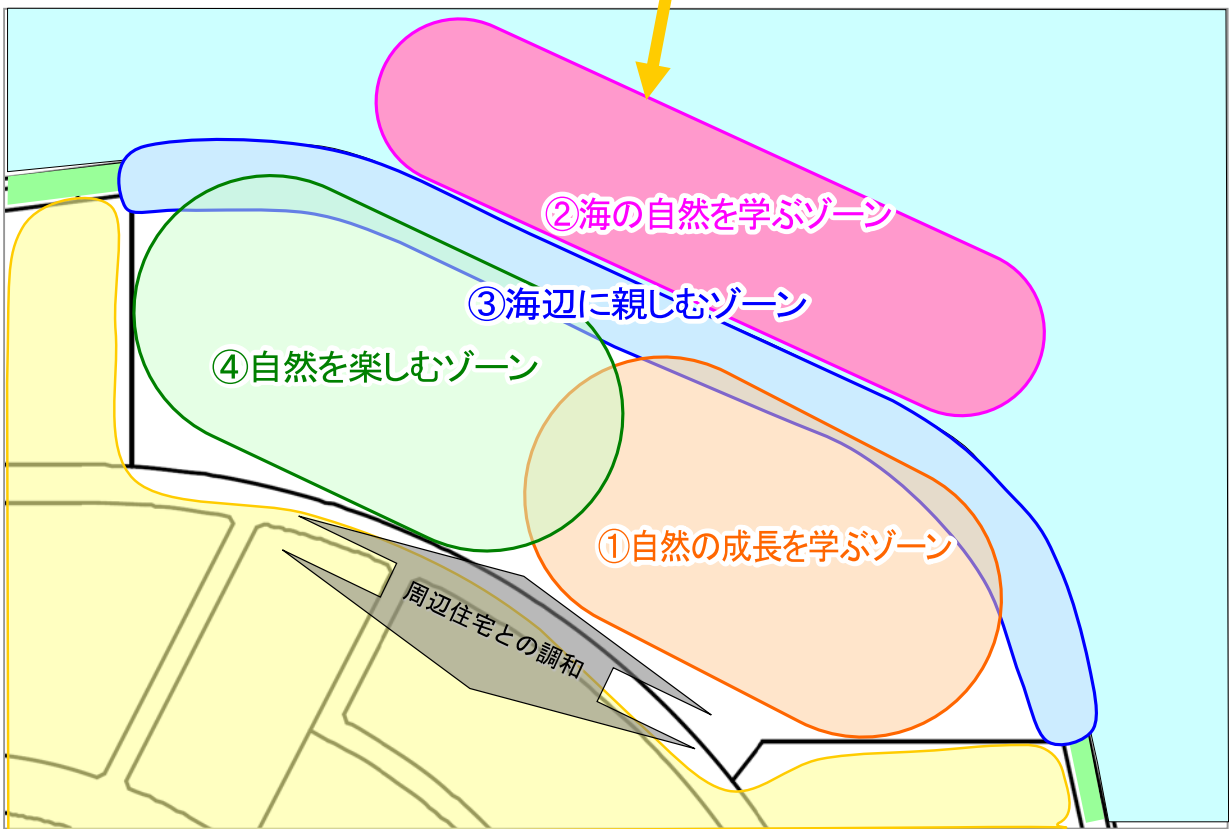
### (2) 自然に親しむ空間の創出 . . . **楽しむ・にぎわう**

#### ③ 海辺に親しむゾーン

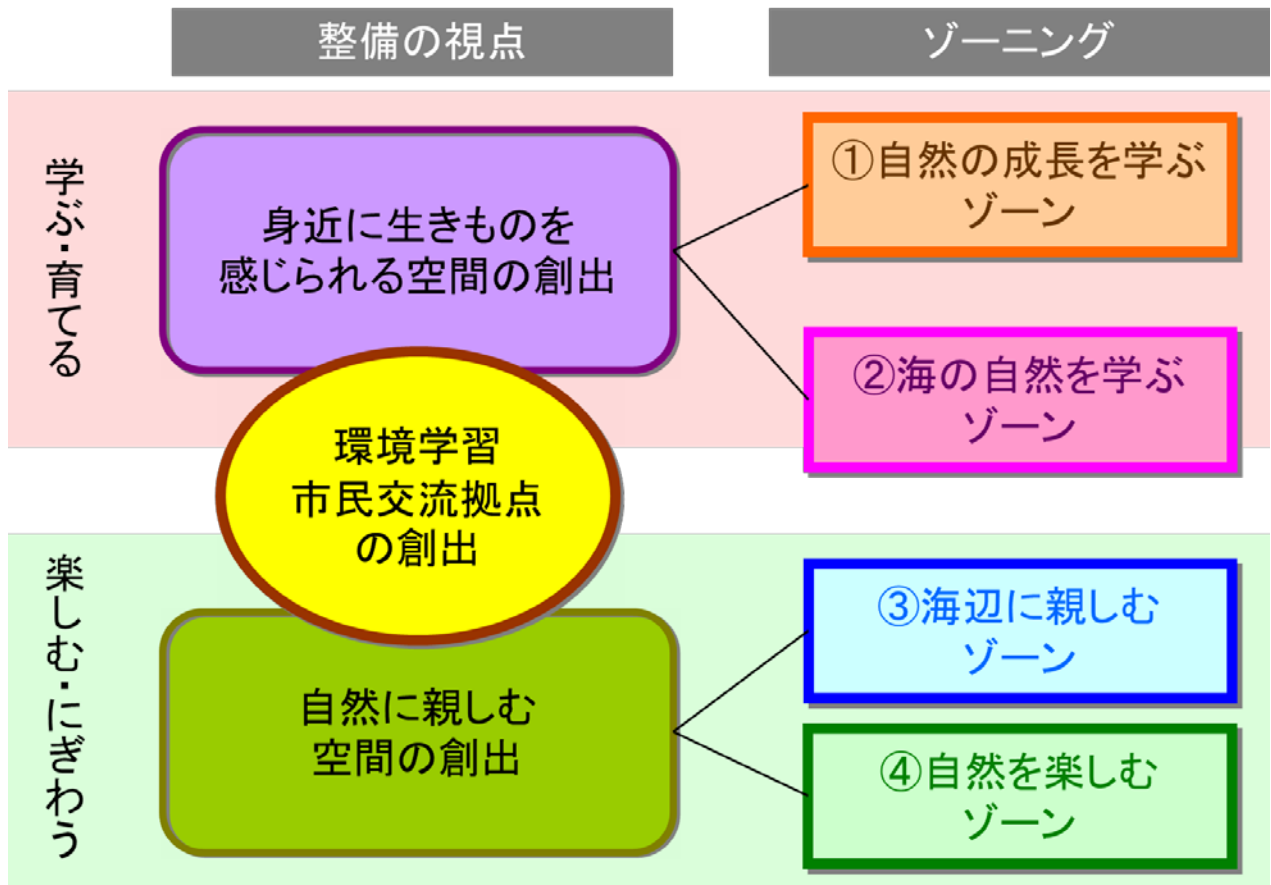
遊歩道と緑を配置し、海辺を感じ親しみながら歩きたくなる空間を水際線に創出する。

#### ④ 自然を楽しむゾーン

訪れる人々の交流が図れるとともに、アイランドシティやエコパークゾーン全体を一望したり、休息やピクニックなどを通してくつろぐこともできる空間を創出する。



野鳥公園のゾーニング図



ゾーニングの考え方